

下田市都市計画マスタープラン完成!!

下田の歴史、自然、文化に親しみ 住んでいなくなる また来たくなる都市を目指して...

下田市都市計画マスタープランは、美しい海と森の自然や風土、開国にまつわる歴史・文化、観光をはじめとする産業等の本市固有の地域特性、伊豆縦貫自動車道の建設等の社会・経済情勢を踏まえ、市民の生活の向上と地域経済の活性化を実現するために策定しました。

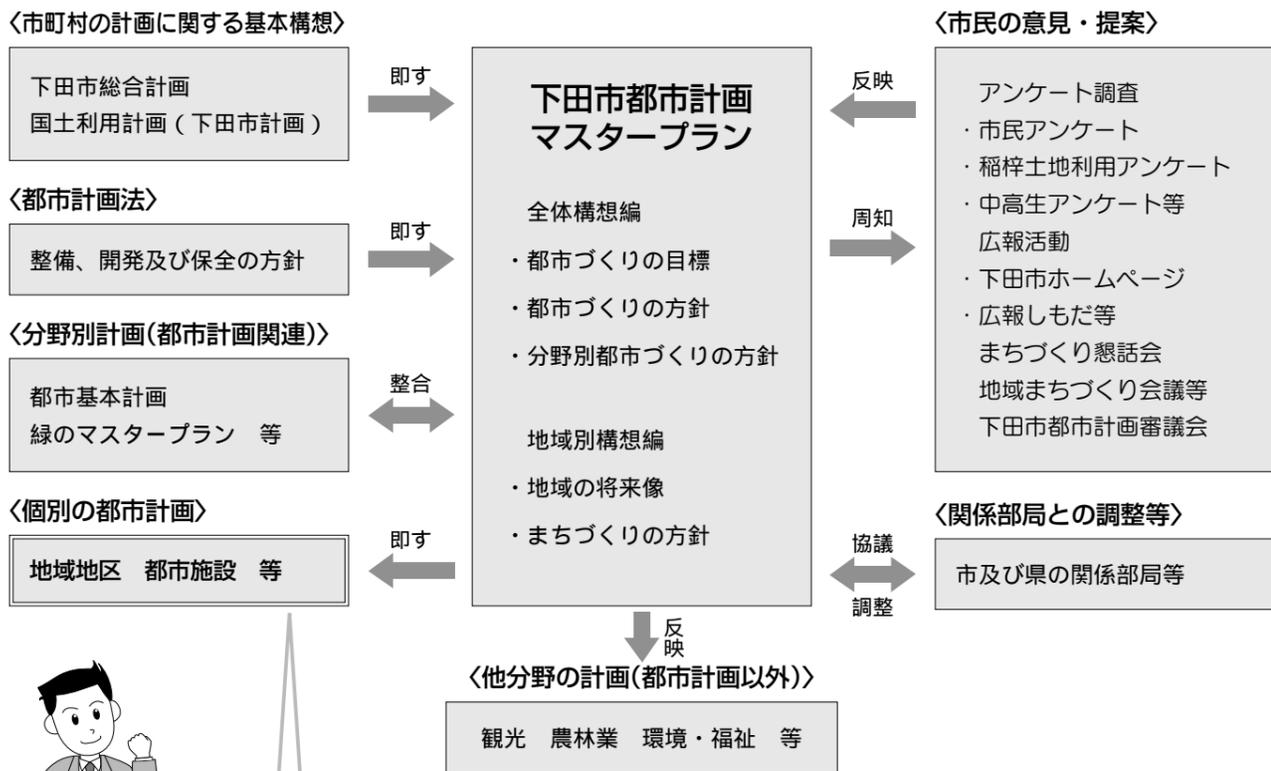
また、都市計画マスタープランは、都市計画法に基づき、県や市町村の基本構想や既定計画等との整合を図りつつ、将来的に行う個別の計画に際しての指針となります。

まちづくり会議にご参加していただいた多くの市民の皆様を始め、関係各位に対しまして、心からお礼申し上げます。皆様のご意見を反映させて策定された計画に即し、これからのまちづくりを進めていきたいと思っております。

まちづくり
の
あ
ら
わ
い
版
No.10



下田市都市計画マスタープランの総合的な体系



計画の実現へ向けて、伊豆縦貫自動車道（下田市）を含めた都市計画道路の見直し検討及び旧町内を対象としたまちづくりのルールづくりなどから取り組みます。

※下田市都市計画マスタープランは、建設課及び下田市立図書館において閲覧できます。また、概要版は広報しもだ5月号に合わせて各戸に配布させていただきます。

問合せ先 ▶ 建設課伊豆縦貫道係 TEL 22-2219 FAX 27-1007
E-mail: kensetsu@city.shimoda.shizuoka.jp

下田市内の指定文化財②

新たに市指定文化財として指定された「豆州下田港之図」を紹介いたします。

下田有形文化財

豆州下田港之図

所有者 下田市教育委員会
指定日 平成18年3月28日



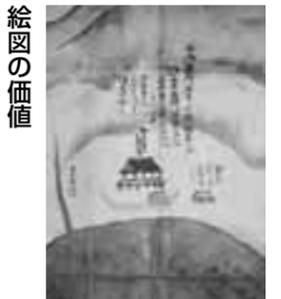
絵図の作製年代と内容

この絵図は、描かれた内容や絵の具から、江戸時代前期の第四代下田奉行今村伝三郎（寛文8年～延宝6年、1668～1678）に作製されたと考えられています。絵図の大きさは113センチ×171センチで、画面中

央に鷓鴣島が描かれ、右上には暮盤の目のように区画された下田の町並と、それを囲む山々が、画面下には須崎半島が描かれています。

絵図によってわかったこと
絵図の大きな特徴は、画面随所に墨で書かれた「書込み」の豊富さです。これによって、それまで知り得なかった数々の事柄が明らかになりました。

例えば、鷓鴣島のふもとに設置された下田奉行所が第三代下田奉行石野八兵衛の時にできたこと、下田奉行所の最も重要な施設であった大浦の船改番所（海の関所）が、辰巳（東南）方向に向かって建てられた5間（約9メートル）×10間（約18メートル）の建物で、与力2人、同心10人が勤務していたこと、隣接する建物には検問の補助役であった問屋衆が毎日詰めていたこと。そのほかにも奉行今村伝三郎の屋敷が現在の中島橋を渡った本郷側にあったこと等々、江戸時代前期の下田の様子が具体的にわかるようになります。



大浦の船改番所(海の関所)

絵図の価値

海の関所が置かれていた江戸時代前期、下田は「出船入船三千艘」と称されるほどの繁栄を誇りましたが、残念なこと、この時代の記録は後世の天災によって多くが失われ、地元にはほとんど残っていません。そのような中、新たに指定された「豆州下田港之図」は、江戸時代前期の下田の姿を今に伝える数少ない貴重な歴史史料であり、未来に受け継ぐべき下田市の財産とすることができそうです。

問い合わせ先

下田市教育委員会生涯学習課
☎5055

【訂正とお詫び】

4月号掲載の「元理源寺十三観音」の文中で、今日では法要が営まれていないような印象を与える文章を記載しましたが、現在でも毎年4月に法要が営まれております。訂正し、関係者の方々にお詫び申し上げます。

樹のまち vol.54

黒船祭のパレードの最中、懐かしい顔を見かけました。懐かしいといつても下田市観光アドバイザーを3月末まで務めていた元JTB社員の村上政司さんです。彼は6年間、下田の「観光の顔」として数々の実績を残してくれました。民宿への中学生などの教育研修旅行受け入れを積極的に進め、現在では東海や首都圏などから年間5千人を数えるようになりました。ホームステイ方式での民宿の人の触れ合いや、豊富な自然を活用した数々の体験の強烈な思い出が「下田リピーター」につながっています。市長！一緒にPRに回りますよ。彼や寺川進前白浜観光協会長と一緒に情報提供をしながらトップ外交で営業活動をした横浜地区からは数校が下田を訪れるようになりました。「下田は海・山・川・温泉・歴史・食と観光資源に恵まれています。情報が発信が下手です。私の在任中に行政や観光協会の中に、お客さまのニーズに的確に対応できる情報窓口を確立できずに下田を去るのは残念です。観光はまちづくり・ひとづくりです。真のおもてなしの心をしっかりと持った下田づくり

を目指して下さい！。彼が残してくれた言葉です。下田を退職と同時に箱根町にスカウトされました。60人の職員を率いる財団法人箱根町観光協会の専務理事という要職です。振興公社と10の観光協会が合併してできた町の助役が理事長を務める新しい組織です。まさに箱根の観光を仕切る「観光の顔」です。

「箱根は大名行列や大文字焼きみたいな観光イベントはたくさんありますが、すべて地区のイベントです。その点、下田の黒船祭はアメリカ大使や近隣の市町村長、下田を応援する色々な方々が参加する歴史ある素晴らしい祭典。箱根町の山口町長が「うらやましがっていましたよ！」。箱根は年間2000万人の交流客を迎え、宿泊客500万人を数えます。ちなみに下田は330万人に宿泊客は98万人。先日、教育旅行で重複予約があり旅行者から受け入れ態勢の不備に手厳しいお叱りがありました。ひよっとしたら村上さんという観光のプロを失った痛手は大きいのかも知れません。



下田市長 石井直樹